

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
東京デザイナー学院	昭和52年3月1日	徳田悦男	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人Adachi学園	昭和40年10月1日	安達暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	デザイン専門課程	グラフィックデザイン科	平成15年2月19日	-																							
学科の目的	広告、出版、パッケージ、ロゴ、ブランド、キャラクターなど、多岐にわたるグラフィックデザインの仕事において、企業と連携した授業を行うことにより、卒業の時点で、あらゆる分野の仕事にも対応可能なデザイナーの育成を目的とする。																										
認定年月日	平成〇年〇月〇日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1950時間	294時間	1182時間	474時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
420人	208人	80人	12人	26人	38人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期毎の筆記試験又は作品評価、レポート提出など																							
長期休み	■夏 季:7月25日～9月5日 ■冬 季:12月20日～1月8日 ■春 季:3月25日～4月10日		卒業・進級条件	進級認定単位・・・52単位以上 卒業認定単位・・・96単位以上・終了制作審査合格																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談:指導等の対応 担任職員及び学校カウンセラー、キャリアサポートセンター等による個別面談や家庭訪問指導など		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 1st展(学園祭)の実行委員会等 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報)																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) グラフィックデザイン事務所、広告制作会社、印刷会社、Web制作会社等 ■就職指導内容 資格を有するキャリアサポートセンター職員による個別指導並びに学内企業説明会等		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	0	0	人	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資格・検定名	種		受験者数	合格者数																						
0	0	人	人																								
0	0	0	0																								
0	0	0	0																								
0	0	0	0																								
■卒業者数 87 人 ■就職希望者数 71 人 ■就職者数 66 人 ■就職率 : 93 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 75.9 % ■その他 ・進学者数:2人(大学進学) ・未就職:5人(留学生4人、日本人1人)		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																									
中途退学の現状	■中途退学者 17名 平成29年4月1日時点において、在学者192人(平成29年4月1日入学者も含む) 平成30年3月31日時点において、在学者175人(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由、学習意欲の喪失等 ■中退防止・中退者支援のための取組 スクールカウンセラーによるカウンセリングや、転科・転専攻等の指導など		■中退率 9%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 入学時に待生試験を実施する。学内規程でA～Eの5段階で評価し、評価A～Dに対し1年次授業料の免除をする。評価A:90万円減免。評価B:45万円の減免。評価C:10万円の減免。評価D:5万円の減免とする ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://www.tdg.ac.jp/dept/graphic/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(※1)下記のほか「就職者数(開通分野)」は「学校基本調査」における「開通分野(就職)発表」に記載します。また「その他」の欄は「開通分野へのアルバイト者数」を指します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

広告、印刷、Web、パッケージ等、グラフィックデザイナーの活躍の場は多岐にわたり、また求められる資質も時代の趨勢に合わせて変化をしている。そういったグラフィックデザインの現場で即戦力となり得るような人材の育成を教育目標としている。この教育目標を達成するため、業界の最前線で起きていることをカリキュラムに反映できるような企業・団体を教育課程編成委員に選定し、時代に即応したグラフィックデザイナーを育成することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、本校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業内容や授業方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的とした組織である。年に2回の開催を原則として、学科カリキュラムを決定していく。教育課程編成委員会で提案された意見は、学内の幹部会議(コア会議)での承認を経た後、学校長の許可を得て正式な決定とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
富澤 健	東京グラフィックデザイナーズクラブ	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	①
藤原 亮二	有限会社 藤原アイアークラフト	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	③
月岡 正明	東京デザイナー学院 グラフィックデザイン科 学科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
田中 智恵	東京デザイナー学院 グラフィックデザイン科 専任教員	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 平成29年8月10日 17:00～19:00

第2回 平成29年12月12日 16:30～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1年生後期から始まるブランディングの授業について、それよりもリサーチ、マーケティング、企画書作成について優先的に学ぶべきであるという提案がなされた。これに対し、次年度では、ブランディングの授業内で、リサーチ、マーケティングについても補助的に扱うようなカリキュラムの変更をかけた。企画書については、2年生前期の修了制作のプレゼンテーションの際に導入を図った。また、授業内でもっと留学生との交流を図ることはできないかとの提案もあったが、こちらについては今後も懸案事項として扱っていくこととした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

「デザイン研究」の授業は、グラフィックデザインの歴史と裾野について、業界全体を俯瞰した視点で学ぶ授業である。グラフィックデザインを、その成り立ちから学ぶことが、最新のデザイン動向を学生に理解させることにつながることから、40年以上に渡って幅広いグラフィックデザインの制作実績を持つ、有限会社バースツウを選任した。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

近代から現在に至るまでのグラフィックデザイン業界の研究を行う。学生は具体的なデザイナーやデザイン団体、クリエイターを取り上げて、リサーチを行い、レポート形式でまとめ、発表する。その内容についてバースツウが、業界全体の動向や歴史を踏まえた視点から助言を行い、学生の企業理解を深めるサポートを行う。レポートの内容は、学科長と共有し、進路指導に活用する。毎回の授業における発表、または提出されたレポートの内容、及び出席状況や授業態度を総合的に判断して成績評価を行う。授業の評価は、発表・レポートについては、バースツウが50点満点で評価し、出席状況・授業態度については、学科長が50点満点で評価。両者の評価を合わせた100点満点で成績評価とする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デザイン研究	企業と連携し具体的なデザイナー、クリエイターを取り上げ調べ学習を行いレポート形式でまとめ発表を行う。	有限会社バーズツウ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
 学校は就業規則・第12章・第79条に基づき、教職員(学校が期間を定めて雇用する非常勤職員を除く)に対し、業務に必要な知識及び技能を高め、資質の向上を図るため、年に一度、必要な研修を行う。実施に際しては、予め計画を立て、実施に努めるとともに、職員に研修を受ける機会を与えなければならない。教職員に対し、必要と認める時は、前項に加え、時代に即した専門分野における専門的能力を修得することを目的に、別途研修を行うものとする。この研修は他の機関と共同し、又は他の機関に委託して研修を行うこともできる。教職員は、職務の遂行に必要な知識、技能を修得するために実施される研修を受講するよう命じられた場合には、特段の理由がない限り、研修を受講しなければならない。

(2) 研修等の実績  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名「新学習指導要領に備え～『情報デザイン』について」(アドビシステムズ株式会社)  
 期間:平成29年11月28日(火) 対象:グラフィックデザイン科教員  
 内容:学習指導要領の改訂に伴う「情報デザイン」の授業の導入事例について学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 研修名「メンタル研修～将来を描き未来をつくる」(アチーブメント株式会社)  
 期間:平成30年1月31日(水) 対象:全教職員  
 内容:学生の就活に対する意識向上のため、モチベーションアップを促すスキルをワークショップを用いて体得する。

(3) 研修等の計画  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名「マーケティングスキル向上のための基礎知識」(有限会社 藤原アイアン・クラフト)  
 期間:11月30日(金) 対象:グラフィックデザイン科 教員  
 内容:修了制作の指導に必須となる、マーケティングの基礎知識について学び、学科内コンセンサスを得る。

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 研修名「接遇のマナーについて」(有限会社ネスト)  
 期間:1月23日(水) 対象:全教職員  
 内容:「わたしのしごと展」で企業をお迎えするに際し、学生たちに接遇の基本のマナーを教えるためのスキルを学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができてきているか、その教育目標を学科の指針として具体的に展開できているかについて関係業界、卒業生と対象として自己評価の結果にそって説明する事で、教育目標、教育方法や内容、管理体制を評価いただく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	専門分野の特性は明確化や将来構想について等
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか等
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか等
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制の整備がなされているか等
(6) 教育環境	施設・設備は教育上の必要・充分に対応されているか等
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適性に行われているか等
(8) 財務	中期・長期の学校計画に基づき、財政基盤は安定しているか等
(9) 法令等の遵守	法令・専修学校設置基準の遵守と適正な運営がされているか等
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティア活動を奨励し、かつ支援しているか等
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

情報発信力が弱いとの指摘を受けた。具体的には、教育目標や求める学生像について、Webサイトや学校案内等にわかりやすく書かれていない、そもそものWebサイトがわかりにくいというもの。いずれも、指摘をもとに改善を進めており、評価委員から随時意見をいただいている。またグラフィックデザイン科については、東京オリンピックを控え、外国人観光客の増加に対応した、デザインの学校ならではの貢献に期待したい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
阿部 賢吉	有限会社レモン	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	地域等委員
藤原 亮二	有限会社 藤原アイアン・クラフト	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等委員
秋月 久美子	フリーランス	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: [http://www.tdg.ac.jp/common/pdf/tdg\\_Information.pdf](http://www.tdg.ac.jp/common/pdf/tdg_Information.pdf)

公表時期: 平成30年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に則した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育に関わる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために広く雇用側の企業・関係団体・自治体等に向けて公表していく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	東京デザイナー学院 情報公開資料・1.学校概要
(2) 各学科等の教育	学科紹介
(3) 教職員	東京デザイナー学院 情報公開資料・5.教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備
(6) 学生の生活支援	東京デザイナー学院 情報公開資料・6.学生支援
(7) 学生納付金・修学支援	東京デザイナー学院 情報公開資料・7.学生納付金・就学支援
(8) 学校の財務	東京デザイナー学院 情報公開資料・8.学校の財務
(9) 学校評価	東京デザイナー学院 情報公開資料・9.学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <http://www.tdg.ac.jp/>

## 授業科目等の概要

(デザイン専門課程グラフィックデザイン科) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			表現基礎	グラフィックデザインにおいて必要なアイデアの出し方、造形や色彩を駆使したビジュアル表現を学ぶ。	1前	68	4	○			○				○
○			色彩	色の三原色を学び平面構成を通して色相対比のトレーニングを行う。	1前	68	4	○			○				○
○			テクニカルドローイング	色の3原色を学び平面構成を通して色相対比のトレーニングを行う。	1前	68	4	○			○				○
○			デザイン実習1	PCを用いIllustratorの基礎的な操作方法を学ぶ。	1前	68	4	○			○				○
○			デザイン実習2	PCを用いphotoshopの基礎的な操作方法を学ぶ。	1前	68	4	○			○				○
○			デザイン実習3	PCを用いwebデザインに関する基礎的な操作方法を学ぶ。	1前	68	4	○			○				○
○			デザイン概論	近代からのグラフィックデザイン史を学ぶ。	1前	34	2	○	△		○				○
○			コミュニケーション論	広告表現を主な題材として、ビジュアル、コピーを分析し視覚伝達方法を学ぶ。	1前	34	2	○	△		○				○
○			デザイン研究	企業と連携し具体的なデザイナー、クリエイターを取り上げ調べ学習を行いレポート形式でまとめ発表を行う。	1通	34	2	△	○		○				○ ○
合計				科目	単位時間( 単位)										
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				16週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(デザイン専門課程グラフィックデザイン科) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グラフィックデザイン実習1	実践的なグラフィックデザイン制作を行う。発想に加え詳細なフィールドワークによる市場調査に重点を置き制作する。	1後	64	4	○			○			○	
○			グラフィックデザイン実習2	実際の仕事で活用するラフスケッチ、イメージカンプなどの描写表現方法を学ぶ。	1後	64	4	○			○			○	
○			コンピュータ演習	デザイン実習1・2の流れを組みより実践的なPCによるデザイン制作を学ぶ。主に印刷物の制作データ、入稿法を身につける。	1後	64	4	○			○			○	
○			マーケティング概論	デザイン概論の流れを組み実際に広告キャンペーンなどを通して市場調査、セールスプロモーションの考え方を学ぶ。	1後	32	2	○			○			○	
○			広告概論	コミュニケーション概論の流れを組み過去と現在の広告作品をもとに広告表現方法を掘り下げる。	1後	32	2	○			○			○	
	○		エディトリアルデザイン	主にIndesignを用い 紙面レイアウト、文字組版など雑誌編集デザインの方法を学ぶ。	1後	64	4	○			○			○	
	○		キャラクターデザイン	企業キャラクター、商品キャラクターなど広告と紐づいたキャラクターデザインを用いたキャンペーンを学ぶ。	1後	64	4	○			○			○	
	○		イラストレーション	様々なイラストレーション表現を学び、印刷物のデザインまで行う。	1後	64	4	○			○			○	
	○		パッケージデザイン	パッケージというグラフィックの中でも立体作品制作を学ぶ。箱やラベルなどの仕組みを学びパッケージを制作する。	1後	64	4	○			○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				16週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(デザイン専門課程グラフィックデザイン科) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		絵本演習	絵本の仕組みを学び、自分のイラストレーションを使用した絵本の制作と造本方法を学ぶ。	1後	64	4	○			○			○	
	○		web演習	外部企業と連携し実践的ウェブデザインスキルの習得を目指した課題制作のシラバスを取り入れた授業。	1後	64	4	○			○			○	
	○		印刷ワークショップ	印刷の仕組み、方法を学び実際に印刷するところまでを実習として学ぶ。	1後	64	4	○			○			○	
	○		シルクスクリーン	印刷技法の中で孔版印刷に焦点をあて、仕組みの理解と作品制作を行う。	1後	64	4	○			○			○	
○			グラフィックデザイン実習3	専攻に分かれ、その分野に特化した実践的制作課題を行う。	2前	108	4			○	○			○	
○			グラフィックデザイン実習4	企業と連携し商品化を目標に産学協同授業を行う。	2前	108	4			○	○			○	○
○			グラフィックデザイン実習5	コンペに向けて作品制作を行い実際に出展する。	2前	108	4			○	○			○	
○			作品研究	1年時のデザイン研究の流れを組み、デザイン物、制作者に焦点を当てた研究とその発表を行う。	2前	108	4			○	○		○		
○			デザイン時評	1年時後期の広告概論の流れを組み、現在のデザイン作品に焦点を当て取り上げ研究する授業。	2前	54	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				16週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(デザイン専門課程グラフィックデザイン科) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			業界研究	1年時後期の広告概論の流れを組み、現在の主に広告業界の動向など現在の業界を学ぶ授業。	2前	54	2	○			○			○	
○			グラフィックデザイン概論	1年時後期の広告概論の流れを組み、現在の主に広告業界の動向など現在の業界を学ぶ授業。	2前	34	2	○			○			○	
○			卒業制作研究	過去の卒業制作作品をもとにその制作方法や考え方、制作過程などのレクチャーを受け自分の卒制テーマを考える参考とする授業。	2前	20	2	○			○		○		
○			卒業制作指導	各自がテーマを決め、自分の定めたクライアント、制作物でデザインを行う。	2通	150	30				○	○			○
	○		ポートフォリオ制作	就職活動に向けたポートフォリオの制作指導を行う。ポートフォリオも自分のデザイン物とし製本方法やレイアウトなどを学ぶ。	2前	180	4				○				○
	○		デジタルレイアウト	macを使用した実践的紙面組版を学ぶ。文字のスペーシング、視覚調整を学び美しいレイアウトを目指す。	2前	180	4				○				○
	○		アドバタイジング	実践的な広告制作を学ぶ授業。クライアントを定め主要媒体の広告を制作する。	2前	180	4				○				○
	○		写真实習	広告やエディトリアルデザインに活用する商業写真の撮影方法、物撮りの演習などを行う。	2前	180	4				○				○
	○		C.I演習	既存の企業をテーマに、ロゴマークを始めとしたCI計画のリデザインを行う。	2前	180	4				○				○
合計				科目	単位時間( 単位)										
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				16週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(デザイン専門課程グラフィックデザイン科) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			DTP演習	IllustratorとPhotoshopを用い、実践的な印刷物データを作る為のトレーニングを行う。	2通	108	4	○			○			○	
○			モーショングラフィック	Flashを使用し、アニメーションの基本を学ぶ。動的サイトや動的コンテンツ制作を行う。	2通	108	4	○			○			○	
○			文章・校正	コピーライティングの実践的な授業を行う。キャッチコピーからボディコピーまでの表現方法を学び実際に文章を考え言葉を作る授業。	2通	108	4	○			○			○	
○			造本演習	上製本を始めとした様々な本の仕組みを学び製本方法を身につける授業。	2通	108	4	○			○			○	
○			立体イラストアート	粘土やスタイロフォームなどを用い立体的な作品制作を学ぶ授業。出来上がった作品は写真撮影を行い立体イラストレーションとして印刷物に使用する。	2通	108	4	○			○			○	
合計				41科目				1950単位時間( 単位)							
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
卒業要件の96単位以上・終了制作審査合格 上記の必修・選択以外に他科・他専の選択科目も学習することもできる									1学年の学期区分				2期		
									1学期の授業期間				16週		

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。